



## 再現可能性危機に挑む！フィールド実験をベースにした基礎心理学的研究



研究者所属・職名 : 持続可能な社会のための  
決断科学センター・助教

ふりがな せん こん

氏名 : 銭 琨 (QIAN, Kun)

主な採択課題 :

- [国際共同研究加速基金\(国際共同研究強化\(B\)\) 「認知心理学における文化比較の再定義 : 日芬フィールド実験研究を通して」 \(2020-2024\)](#)
- [基盤研究\(C\) 「多文化環境における錯視の生起因の解明~フィールド実験の手法を用いて」 \(2020-2023\)](#)

分野 : 実験心理学、文化心理学

キーワード : 心理学実験、文化比較、フィールドワーク、視覚、認知

### 課題

●なぜこの研究をおこなったのか？ (研究の背景・目的)

心理学はいま再現可能性の危機に臨んでいる。これまで蓄積された心理学の研究成果、その多くは同じ方法を使っても再現できないとの問題は近年厳しく指摘されている。心理学各分野においては、特に認知心理学や社会心理学などの基礎心理系研究の再現性が低いと言われており、その原因究明と打開策は重要緊急な課題として認識されている。心理学で多く行われてきた「文化間比較研究」も、実は図1のように多くの問題点があり、それが再現性の低下に繋がったのではないかと考えられる。

●研究するにあたっての苦労や工夫 (研究の手法)

再現可能性危機と文化比較の諸問題を解決するには様々なアプローチがあるが、私は「フィールドワーク」という研究手法に着目した。フィールドワークは文化人類学や社会学などでよく使われる手法だが、実験や質問紙調査を中心とする基礎心理学的研究には程遠い存在だった。しかし、フィールドに深入りして緻密な心理実験を行い、多様性に富む量的データを取得すれば、上記の諸問題の解決には必ず役立つと信じている。

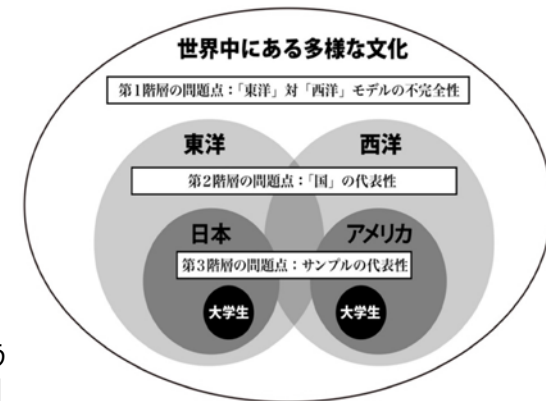


図1 認知心理学分野における文化間比較研究の主な問題点



## 再現可能性危機に挑む！フィールド実験をベースにした基礎心理学研究

### 研究成果

#### ●どんな成果がでたか？どんな発見があったか？

主な採択課題はいずれも2020年度スタートだが、新型コロナウイルス感染症流行のため、計画していた全てのフィールド実験は中止を余儀なくされた。それでもできることからやりたいとの思いで、今年度は以下の研究成果をあげた。

1. 本来はフィールド実験の統制群として計画していた実験室実験は予定を早めて実施し、特に基盤研究(C)の実験はコロナ禍の影響が顕在化する前に行い、研究成果を出せた。図2に示す我々が新しく発見した錯視現象に対して、その空間的特性を解明した研究成果がVision Research誌に掲載された (Qian & Mitsudo, 2020)。
2. これまでのフィールドワークの成果を最大限に活かし、蓄積してきたデータの整理と分析に貴重な時間を得た。そのうち、東南アジアでのフィールド調査でサンプリングした昆虫食の刺激画像を使い、昆虫食への抵抗心理と行動免疫システムとの関連性を明らかにし、その研究成果はFrontiers in Nutrition誌に掲載された (Qian & Yamada, 2020)。
3. コロナ禍のためフィールド実験が不自由になったことから、コロナ禍を相手とする研究に取り組み始めた。仇を討つという率直な感情もあるが、実はコロナ禍による人間の心理と行動の変容を把握・解明するのは、心理学研究者の責務ではないかとの理性的な考えもあった。4月7日の緊急事態宣言発令後、いち早く日本全国の一般市民を対象にオンライン調査を実施し、コロナ禍での心理・行動と性格・道徳基盤・イデオロギーとの関連性を明らかにし、その成果はPLOS ONE誌に掲載された (Qian & Yahara, 2020)。また、コロナ禍での食行動や、食料の獲得と廃棄行為を調査・分析した論文も先日Sustainability誌に掲載された (Qian, Javadi, & Hiramatsu, 2020)。

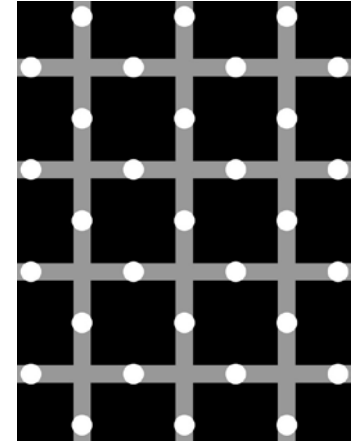


図2 新しく発見した錯視現象。白い真円が楕円形のように見える。

### 今後の展望

#### ●今後の展望・期待される効果

まずはコロナ禍の早期収束を何よりも願っている。心理学の立場から見ると、今は社会全体から一人ひとりの個人まで、感染症自体の影響よりも遥かに大きい心理的影響・負担がかかっている。パンデミックが長引くことによって、この心理的影響・負担は感染症収束後にも持続的に存在することは懸念している。コロナ禍の収束はフィールド実験再開の前提ではあるが、身動きの取れない今は、予定課題の実験室実験を粛々と進めながら、前述の「コロナ×心理学」研究に引き続き取り組みたいと考えている。いつか楽しいフィールドワークに行けることを心待ちにしつつ。



図3 フィールド実験@タイ